

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する段取り等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度を実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
1		はい	H30 ・ポッチャ体験(3クラス) ・パラリンピック選手との交流(1クラス)	・障害者への理解と共生	・カリキュラムへの組み込み	特になし
2		はい	<H.29年度> 全校児童対象の聴覚障害者・通訳者による講演会。「聞こえない」ということや困ること、手話やコミュニケーションの取り方などについての講演後、全校児童により手話付き「翼をください」の歌をプレゼント。 <H.30年度> 全校児童対象の視覚障害者による講演会。盲導犬との共同や盲導犬の役割、健常者ができることなどの講演後、児童により歌のプレゼント。	障害者の方の苦労や生活の仕方を直接聴いたり、様子を見たりすることで、知らないことを「知る」ことができ、それによって、自分から関わってみたい・関わってみようという気持ちになる機会を得た。来年のパラリンピックも良い機会で、健常者も障害者もみんな同じように生活し、お互い苦手な部分を補ったり助け合ったりして生きていることを理解していけたらと思う。	講師の方を探すことが難しい。また、学年によつての理解度も違うので、分散して講演をしてもらったり疑似体験させてもらったりする方法も考えるが、校内での時間の余裕もなく、もっと深く関わる方法を模索中。	・今年度、4学年の総合的な学習の時間で、点字体験(点字を読む・打つ・盲学校の子どもたちが使用している教科書を見せていただくなど)や白杖・アイマスク体験に取り組んでいる。 ・クラブ活動(ニューススポーツクラブ)で、ポッチャ、車椅子バスケットボールなどの体験を行っている。
3		はい	・近隣のグループホーム新諏訪に伺い、一緒にゲームをするなどの交流活動を行った。 ・旭寮から毎年旭寮祭への出演依頼を受け、演奏をしている(金管バンド) ・長野養護学校在籍の児童(副学籍)と毎年1時間水泳の交流授業を実施	・地域貢献がねらいである。大したことはできないが、小学生でも交流を通して人の役に立てることを考えるきっかけにしたい。	・老人ホームに入居している方が重篤(認知症等)な方が多く、交流の内容が難しい。	・運動会、音楽会にグループホーム新諏訪、旭寮の方々を招待している。
4		はい	稲荷山養護学校の児童さんと居住地校交流を行っている	交流することで、個性を理解したり、自分も前向きに努力していこうとしたりすることが期待できる。	特になし	特になし
5		はい	・総合的な学習の取り組みとして老人ホーム「ナーシングホームながの」へ行って老人ホームの方にアルバムをプレゼントするための交流活動を行っている。 ・認知症サポート講座の実施。	・課題解決能力、社会性、自尊心等を高める。 ・学級経営の一環として、活動を通してまとまって欲しい。	特になし	特になし
6		はい	①吉田小学校から居住地交流として4年生の児童が来て、運動会に練習から一緒に参加するなど交流をした。 ②長野養護学校・長野豊学校からそれぞれ居住地交流として学校へ招き、音楽の授業や図工の授業を通して交流した。	・継続して交流することで、障害を持った児童に対する理解が深まっていくと思われる。 ・自分の住んでいる地域にも様々な友だちがいることを知り、より身近に感じたり、交流することで助け合ったり思いやりたりする気持ちが持てるよ。	・継続することが大切。 ・交流することだけで終わってしまうように思うこと。	特になし
7		はい	①毎年度、3年生がレモンデイズさんに来ていただき、一緒にゲームをしたり、手話を教えてもらったりして交流活動を行っている。(耳の不自由な方との交流) ②毎年度、4年生はボランティアセンターの方に紹介していただき、目の不自由な方のお話を聞いたり、アイマスク体験をしたりする活動を行っている。(目の不自由な方との交流) ③毎年度、5年生はボランティアセンターの方に紹介していただき、足の不自由な方のお話を聞いたり、車いす体験をしたりする活動を行っている。(足の不自由な方との交流) ④毎年度、6年生は地域の方に来ていただき、昔のお話を聞いたり、ランドゴルフをしたりして交流活動を行っている。(お年寄りの方との交流)	3～6年生までは、毎年色々な方と交流でき、よい学習の時間となっている。 3年生：聴覚障害の人とのコミュニケーションについて学ぶ。 4年生：アイマスク体験を通して、サポートの仕方を知る。 5年生：日常生活の様子を知り、理解を深める。 6年生：交流し、助言を受けながら活動することの良さを味わう。	車いす体験をする際に、車いすを何往復もしてお借りしに行くことが大変だと感じました。	ポッチャ体験(H30、5年生実施) ボランティア委員会が、近くの老人施設に交流に行った(H28)
8		はい	・介護老人ホームあたごに伺い、歌などを発表したりグループ別に交流などの活動をしている。(3回目 10月9日(水) 4回目 11月6日(水)予定)	・お年寄りの方々も自分たちも共に楽しめることを考え、企画・実施する。 ・相手のことを思いやることができる。	・交流先と日程を合わせていくこと。	特になし
9		はい	・今年度、1学年では 副学籍の若槻養護学校の児童と授業やお楽しみ会などの居住地交流を行った。 ・平成30年9月～10月 2年生の時に吉田デイサービスへ5回に渡って交流をさせていただいた。内容は一緒に昔の遊びをしたり音楽会の曲を聴いてもらったりするなどの交流活動を行った。(3年) ・毎年度、特別養護老人ホーム(ケアホーム吉田やフランセーズ悠など)に伺い一緒にゲームをしたり折り紙をしたりと交流活動を行っている。(6年) ・近隣の幼稚園、保育園に伺い本の読み聞かせをしたり鬼ごっこをして遊んだり交流を行っている。(6年)	・副学籍の児童が本校の環境に慣れることを目的にしている。(1年) ・はじめは緊張していた子ども達が、回を重ねるごとに「おばあさんやおじいさんと遊べることを楽しみに思えるようになった。」 ・子ども達は、喜んでもらったり、かわいがってくれるのがうれしくて、やさしい気持ちを育むことができた。(3年) ・一緒に活動を続けていく中で、名前を覚えてもらって嬉しいと子どもたちも喜んでいて。お年 寄りの方々や小さい子どもとの接し方など関わり方も回を重ねる度によって行く様子がみられる。(6年)	・学年で取り組みたかったが、近年、授業の遅れを心配する学級が多くあり、足並みをそろえて取り組むことができなかった。	・国語で点字を学習、アイマスク体験予定(4年) ・認知症サポーター講座の実施、クラブ活動での外部講師の取り組み(高学年) ・参観日に来られたお年寄りの方々に呼びかけをして、「カフェ」を開き、子ども達が店員となってコーヒーなどを振る舞った。(特支) ・エコキャップの収集を全校に呼びかけて、仕分けしリサイクル業者に渡している。・リサイクルに出せないキャップを使って「ダメキャップアート」を作成し、二学期に児童会祭りに展示予定。 ・赤い羽根募金、書き損じはがき集めを全校に呼びかけて、取り組む予定。(委員会)

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する段取りが分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組:総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
10		はい	①昨年度、1学年児童が長野養護学校の児童1名(小学校1年生:副学籍)をお招きして、体育の水泳等の交流活動を行った。 ②今年度、1学年児童が長野養護学校の児童1名(小学校1年生:副学籍)をお招きして、生活科のゲーム遊び、運動会への参加、体育の水泳等の交流活動を行った。今後も生活科等の学習と一緒にやっていく。(12月13日(金)は実施予定。その他にも随時実施予定。期日は未定。) ③今年度、2学年児童が長野養護学校の児童1名(小学校2年生:副学籍)をお招きして、運動会への参加、体育の水泳等の交流活動を行った。今後も生活科等の学習と一緒にやっていく。(12月13日(金)は実施予定。その他にも随時実施予定。期日は未定。)	・同じ地区内に居住する長野養護学校の児童と親睦を図ることをねらいとして実施し、交流を重ねることにお互いに手を取りあって活動していく姿が見られ、自然な関わりで活動できるようになってきた。今後も交流の取組を継続して、ともに成長していくことを期待しています。	・実施期日、時間等の調整に時間がかかってしまうことがある。	①地域の老人をお招きしての地域の方から学ぶ会(地域の老人の方を講師として、ご自分の特技を児童に紹介し、体験する取組)(H29 小学校1年生、H30 小学校2年生実施。今年度 小学校1年生 9月26日(木)実施予定。) ②福祉体験学習(アイマスク体験または視覚障がい者の方をお招きしての講話等:小学校4年生実施予定。期日未定。)
11		はい	毎年、長野ろう学校との交流を行っている。 4月:手話カレンダー配布 5月:交流発足会 6月:交流運動会、社会見学、クラブ活動(～9月) 8月:プール交流 9月:交流遠足 10月:音楽会、学校祭交歓会、社会見学 10月～3月:学級(学年)交流 2月:交流のあゆみ(文集)発刊	ろう学校の児童と年間を通して、また毎年交流することで、子どもたち同士の自然なかかわりや相互理解を積み重ね、深めていく。	活動の日程合わせ、運動会練習時の移動など児童への負担が課題。	ハートネット東鶴賀さんとの交流(H29年度4年生)
12		はい	・総合的な学習で、本校児童の希望により、学区内の老人ホームや市立保育園・私立幼稚園へ伺い、交流活動を行った。	・自分とは違う世代の方との交流により、相手の立場に立ったものの考え方ができるようになる。自分本位ではなく、交流する相手によって何が楽しんでもらえるかを中心に考え、学習を進めることができた。	・秋から冬にかけては、インフルエンザ等の流行により、交流ができないことがあった。	・アイマスク体験学習 ・フロアホッケー体験 ・地域の老人会との交流
13		はい	・3年・6年・加藤正さんをお招きして「バラ教育」(ポッチャ)の体験(7/23) ・3年生:聴覚障がい理解 手話教室(小林様来校) 毎年実施(6/20・21) ・4年生:視覚障害のある方(盲導犬)との交流・講演会 毎年実施 ・5年生:近隣の施設認知症対応型グループホーム「こもれ陽栗田」へ交流会(歌・リコーダー・おしゃべり) 毎年実施(6/11) ・5年生:近隣の栗田保育園との交流(工作・プレゼント) 毎年実施(6/20) ・6年生:マゼン美季さん講師の市センター研修「バラスポーツ」講座の実技演習を見学(ゴールボール・ポッチャ)(6/18) ・特別支援学級(知障):長野養護学校4年生と交流(図工・体育) 毎年実施年間3回程度(7/10)	地域の中で、自分を取り巻く様々な人(障がい者、お年寄り、幼児等を含む)やもの・こと(事象)について知ったり、触れ合うことで、お互いに認め合い共感しあう心を育て、よりよい関係を気づいていこうとする態度を育てることができる。	・手話教室等を複数回実施したいが、講師料・通訳料等がかかるため実施できない。	・5年:ろう学校の友達との交流 毎年実施 ・6年:古牧地区老人会との交流(10月) 毎年実施
14		はい	平成28年度、29年度にボランティア委員が、近隣の老人ホームに伺い、一緒にゲームをしたり発表をしたりするなどの交流をした。	ホームに入っている方と関わることで、お年寄りへの理解と、喜んでいただいたことで、交流してよかったという気持ちを持てた	児童会の活動で行っているため、準備時間と施設へ行くまでの移動時間と交流時間の確保が難しい。	平成30年度 チェアスキーの選手の講演会
15		はい	①毎年長野盲学校との通年交流。全校、該当学年、特支級と様々な内容で交流している。11②昨年度より、コンフォート岡田へ行き、おりがみやゲーム、歌の発表などをしている。(6年/通年)③赤いほっぺへ行き、乳幼児との交流(5年)年6回予定、次回9月4日。④長野養護学校・附属特別支援学校児童各1名と居住地交流でプール活動を本校で行った。⑤車椅子、アイマスク、白状体験(4年) 毎年実施。	地域にある学校・福祉施設と関わる事で、共に支え合い生きる大切さに気づき、ボランティア精神を育てていく。交流を通して障害者への理解を深め思いやりや優しさを育てる。	学校行事が多くあり、日程の調整が難しい。感染症の流行が始まる秋頃からの交流の予定が中止になってしまい、予定通りの取り組みができないことがある。	ポッチャ体験。外部講師においていただいた。
16		はい	・毎年1回ずつ、4学年児童と福祉委員会の児童が老人福祉施設「ケアライフ柳原」を訪問し、通所しているお年寄りと一緒に遊び、交流をしている。 ・4年生が信州大学附属特別支援学校の運動会を参観したり一緒に遊んだりし、年間3～4回の交流をしている。	・一緒に遊んだり関わったりすることで、相手のことを理解し、一緒に出来ることを考え、共に楽しむ一緒に楽しめることを大事にしている。実際に関わることで、相手のことを考え、関わり方を学んでいけるように願っている。	・お互いの日程調整や打ち合わせや準備の時間等、当日を迎えるまで準備が必要であり、時間もかかる。児童がスムーズに動くためには、時間の確保が難しい。	・信州大学附属特別支援学校との交流(4年生が年3～4回) ・やなぎはら祭(児童会主催の行事)で、福祉委員会の部屋でアイマスクを利用したゲームを行いアイマスクを体験をする。 ・4年生児童のアイマスク体験(総合的な学習の時間) ・ふるさとふれあいタイム(地域の老人会の方と昔の遊びを中心に4年生以上が交流)

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する段取等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
17		はい	①児童会(代表委員会)がりんごの郷(特養)へ訪問し利用者と交流。 ②社協を通じて被災地への寄付。	①養護老人ホームのお年寄りへの理解を深めるとともに交流を通して自己有用感を高めること	①児童会の時間を利用しているため、時間が限られている。移動方法を工夫したい。	特になし
18		はい	①昨年度から第3学年が近隣のデイサービスセンターフランスーズ悠富竹に伺い、一緒にゲームをしたり、折り紙のプレゼントをしたりするなどの交流活動を行っている。今年度も引き続き、第4学年が交流活動を行っている。 ②今年度より近隣の特別養護老人ホーム富竹の里に第3学年が伺い、利用者との交流活動を行っている。 ③毎年、近隣の老人保健施設ふるさとや、フランスーズ悠富竹に課外活動であるマーチングバンドが訪問し、演奏を発表している。	普段ふれあうことのないお年寄り、自由に交流することにより、コミュニケーション能力が向上することや、他者に思いやりを持って関わること、児童同士が計画を相談し、準備を進めることにより、協力することや自主性が向上することを狙いとしており、また、その効果が出てきているように感じられる。	特になし	30年度、パラスポーツであるシッティングバレーの体験を3年3組で行った。
19		はい	①毎年度、第3・4学年中心に特別養護老人ホーム「若槻ホーム」「松寿荘」に伺い、一緒にゲームをしたり歌を発表したりするなどの交流活動を行っている。②今年度は、3・4年生と2年生1クラスが交流活動を行っている。③毎年の運動会には、交流学年、学級より招待状を送り、ご招待している。④児童会主催の資源回収を定期的に行い、その報奨金で車椅子を購入し、松寿荘に贈呈している。	子どもたちがお年寄りの方々と仲良くなるには、具体的にどういう気持ちで、どういう接し方をしたらよいか、課題意識をもって交流し、人としてのコミュニケーションで大事なことは何かを気づかせる効果を期待している。ねらいは、上記の内容である。	移動に少々時間がかかるので、1回の交流で2時間以上費やす。	○4学年で、点字実習として、講師をお呼びして点字プレートを使って点字を打つ学習を行っている。 ○児童会のボランティア委員会の活動の1つで、年間通して「若槻収集デー」という名目で資源回収を全校で取り組み、その報奨金で購入した車いすを「車椅子贈呈式」において、贈呈している。
20		はい	①長野養護学校との交流。毎年行っている。1～6年の各学年代表1クラスが学年の実情に応じて担任同士の相談の上、年に2回交流活動をする。授業参観をするなど職員間の交流もねらっている。その他に長野養護学校の長養祭参観を呼び掛けている。 ②4校交流遠足の実施。徳間小・若槻小・浅川小・北部中の特別支援学級の児童が集まって毎年バス遠足に行く。少年科学センター・サンマリン長野。	①2年目以上の学級ではお互いに様子も分かり交流もし易い。担任同士の話も早く進む様子。初年度の学級でもお互いの学校の児童がお互いの様子を知って楽しみながら交流できている様子。発達段階の早い段階から、継続的に交流がある事から、ノーマライゼーションの考え方が育まれやすいと考えられる。 ②他校の児童生徒と関わる事で普段の学校生活では学べない人との関わり方を知る機会となっている。	①時期の調整。 ②児童の安全面を考慮した十分な引率職員の数を確認すること。	・アイマスク体験 ・点字体験
21		はい	①毎年、児童会[福祉交流委員会]の児童が近隣の学校近隣の3つの老人施設「グループホームあさかわ」「ニチケアセンター」「博愛の園」で交流会をもっている。特にグループホームあさかわさんとは、児童会の時間や休み時間にかけ、歌や簡単なゲームなどで交流活動を行っている。 ②6年の総合的な学習で、グループホームあさかわとの交流を行っている。	お年寄りが自分たちと接することで元気になる実感して甲斐を感じたり、日頃、積極的に自分を表現できない児童、友だちとかかわれない児童がお年寄りと接するなかで、人とかかわりの温かさを感じたりしている様子が見られる。人とかかわりの中で、社会に貢献することの意義をかんじたり、自己肯定感を高めたりできる活動であると感じる。	発表などの機会はあるが、交流して、よさを感じた児童がその実感を、全校に伝え、広めていくことが難しい。個人の経験に留まってしまう。	毎年4年生が浅川社会福祉協議会に協力していただきながら、【認知症サポーター講座】に地域の皆さんと参加している。 毎年3年生が浅川公民館で、地域のお年寄りとの会食会に参加し、歌やリコーダー演奏などのアトラクションに参加している。
22		はい	①お茶のみサロンと称して、地域のお年寄りに、運動会で行った組み体操の一部やダンスを見ていただいたり、グループごとに分かれて、風船バレーボール・福笑い・背文字クイズなどを行い、毎年交流している。②音楽会に地域のお年寄りを招待して、発表の合間に肩たたきや簡単なゲームを行い、毎年交流している。③第一分校地区のお年寄りのそば栽培のやり方やそば打ちのやり方を教わり、そば試食会に参加していただくことを毎年行っている。	①地域のお年寄りに喜んでいただけることを子どもたちも励みにしている。②芋井の昔の様子をお年寄りからお話していただける。	①お茶のみサロンの会場が地域のお寺から学校に移ったが、お昼もいっしょに食べたので準備がとて大変であった。	①お茶のみサロンと称して、地域のお年寄りを学校に招き、風船バレーなどのゲームをしたり、組み体操やダンスを見ていただき、いっしょに給食を食べた。
23		はい	①29年度より、福祉施設エコファミリーさんと特別支援学級・図書委員が蔵書点検作業と一緒に交流をしてきている。②昨年度、障がいのある方を講師に招き全校児童がポッチャ体験を通して交流した。	①仕事での交流を通して障がいがありながら頑張っている姿に触れることで「共生」の感覚を育むことをねらいとしている。②障がい者スポーツに触れ体験することや、実際の姿に触れたり障がいのある方からの話を聞くことで理解を深めることができる。	特になし。	・福祉体験学習(アイマスク等)、地域の安茂里老人福祉センターを訪問しお話をしたり遊んだりの交流 (2学期予定)
24		はい	今年度、4・5年生で、パラリンピックのスポーツ体験を行う予定。その際に、パラスポーツをやっておられる方と交流を行う予定。(2学期)	誰とでも仲良くスポーツと一緒に楽しんだり交流したりできるようになる。 ・障害のある方と交流する時に、気をつけること・気をつけなくていいことなど、子どもたちが体験を通して学ぶことを期待している。	子どもたちが障害を理解すること。準備が大変。スポーツ以外のいろいろな取り組みをしてみたいが、身近に施設等がない。交通手段もない。	福祉体験学習(白杖・アイマスク等)4年生 フロアホッケー体験、本校職員による点字講習

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する段取り等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度を実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
25		はい	○視覚障害がある方を講師に会いマスク体験を行った。	○目が不自由なことの大きさを体感できた。また、手助けの仕方について考えるきっかけになった。	特になし	①フロアホッケー ②アイマスク体験 ③車いす体験(桜ホーム職員) ④コミュニケーションプログラム(NPO信州アウトドアプロジェクト) ⑤聾学校生徒から手話を教わる
26		はい	①3年生が、7月4日(木)にやすらぎの園へ7月8日(月)にアップルケアへ行って、第1回目の交流を行ってきた。本年度は3回の交流を予定。また、篠ノ井デイサービスとの交流は8月28日(水)・9月4日(水)・9月18日(水)・10月2日(水)・10月16日(水)・10月30日(水)・11月13日(水)に3～4名の利用者に来校していただく予定になっている。	・近隣にある特別養護老人ホームについて理解し、楽しく交流し、仲よくなる。 ・利用者の方の得意なことを発揮していただき交流することで、いろいろなことを学んでいく。	特になし	特になし
27		はい	①今年度、第3学年が博仁会桜荘社会福祉総合施設デイサービスセンターに伺い、リコーダーを発表したり、手遊びをしたり、読み聞かせをするなどの交流活動を二学期以降に行う予定。 ②今年度、第6学年(4組)が近隣の社会福祉法人ながのコロニー及び桜荘(上記)に伺い、人形劇を発表するなどの交流を行う予定。	・お年寄りをいたわる気持ちを育み、思いやりやマナーを身につける。 ・高齢者との適切なかわり方を学ぶことができる。 ・ふれあいの大切さを学ぶことができる。 ・自己有用感を高めることができる。	・行き帰りの交通手段(徒歩なので時間がかかる。天候の影響も受ける。)	福祉体験学習(アイマスク等)、地域の老人会との交流(人形劇を発表)、障害のある方を講師に招いてのPTA講演会、車いすマラソンアスリートの方の講演会(交流会を含む)
28		はい	・毎年地域にある施設「共和寮」の共和寮祭に5年生が参加し、ステージ発表をしたりお祭りを一緒に楽しんだりしている。 ・地域の老人ホーム「豊寿苑」に環境ボランティア委員会が出かけていき草取りをしたり、一緒に遊んだりして交流をしている。	・子どもが出演することで、家族ぐるみで参加する家庭が多く共和寮の理解につながる。 ・子どもたちもいろいろな人たちがいることを知り、自分たちとの交流を喜んでもらうことで自分たちも元気をもらい地域の一員として自分たちに行けることを考えることができる。	・限られた時間の中でやらなければならないので、思うことができないこともある。	・講師をお招きして点字学習(4年生) ・ポッチャ体験(5年生) ・高齢者を学校にお招きして交流会(6年生)
29		はい	H29年度に6年生が、近隣の老人ホームに学校で育てた花の苗を届けに行き、メッセージカードを渡して交流をした。	児童の福祉に関する理解を深め、高齢者との関わりの中で敬老の気持ちを高めることができた	特になし	点字学習、独り暮らしの高齢者宅に花の苗を植えに行く、富永 房江さんを招いて講演会、地域の方を招いてガーデンコンサート
30		はい	毎年度、塩崎小学校学区から特別支援学校に通っている児童に小学校へ来てもらい、同学年の児童と一緒に遊んだり活動したりして交流を行った(今年度は2年、3年、5年) H28年度、11月に福祉講演会ということで、車いすバスケット選手の方に来校いただき、全校児童が話を聞いた。代表児童が車いすの体験もさせていただいた。福祉講演会は隔年度で実施し、今年度は11月にポッチャの選手の方に来校いただく予定。	心身に障がいのある人、お年寄りの方々などに対して理解を深め、様々な人々にあたたかな思いを向けられる態度や心情をはぐくむこと	特になし	独居老人との交流会
31		はい	・近隣の特別養護老人ホーム(「ふれあい荘」、「まゆ」など)に伺い、一緒に折り紙をしたり話をしたり、松代の昔話の紙芝居や歌を発表したりして交流した。	・核家族化が進み、日頃お年寄りと接することのない児童が、交流を通してお年寄りの思いを知り、優しい気持ちで関わろうと考えたり新しい発見をしたりすることで視野を広げ、相手意識を持って人と繋がることのできるようになって欲しい。	・担任替え、クラス替えがあることで、継続して関わるのが難しい。	・視覚障がい、聴覚障がいのある方に学校にお越しいただき、どのように工夫しながら生活しているか、どんなサポートをしてもらいたいかな等についてお話をお聞きした。 ・特別支援学級の児童が工作を教えに行ったり一緒に遊んだりして交流した。 ・障害のある方を講師にお迎えし、ポッチャ体験をした。 ・車いす体験、アイマスク体験。
32		はい	毎年度、1・2学年の児童が松代地区内にある特別養護老人ホーム尚和寮に伺い、ダンス等の発表や交流活動を行っている。	・尚和寮のお年寄りに歌やダンスを見せたり、話したりすることで、お年寄りが自分たちと接して楽しんでもらえるように活動する。 ・お年寄りの姿から、自分たちが行った交流の良さ、大切さを感じることができる。	・会話を伴う交流の際、子どもたちの声では聞き取ってもらえないこともあり、会話が成り立たないことがある。 ・すべての方が好意的に交流をしてくださるわけではない。	・長野盲学校通学児童(学区内居住・副学籍あり)との交流。 ・3・4年児童と、聴覚に障害がある方との交流。 ・5・6年児童と、地域の老人会との交流(しめ縄づくり) ・『バラスポーツ出前講座』の実施(ポッチャ体験・講演会)←H30
33		はい	毎年度、第1・2学年が寿会(独居老人対象)にて食事会を行い、その中で学習発表・肩たたきなどの交流を行っている。	毎年、子ども達もまた寿会のみなさんも楽しみにしている交流であり、地域のお年寄りも親しくなったり、また子ども達の顔や名前を地域の人に覚えてもらったりするよい機会となっている。	特になし	特になし

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する段取り等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度を実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
34		はい	①毎年度、第4学年が近隣の特別養護老人ホームの尚和寮に伺い、リコーダーや歌、真田節の披露をし、手作りの折り紙などをプレゼントをしたり、一緒にゲームを楽しんだりするなどの交流活動を行っている。 ②毎年、信大付属特別支援学校の児童1名と同年生の児童との交流活動を行っている。 ③アイマスク体験や点字の学習(予定)	・異なった世代の方や障害を持つ方との交流により、思いやりや感謝の心が育つことや、他者理解の手がかりをつかむことを期待している。	・交流によって得ることは多いが、費用がかかること、学校の授業の中で日程の調節(まとまった準備時間をとる、臨機応変に対応する)が難しい。	ゴミ拾い登校、福祉体験学習(アイマスク等)、地域の老人会との交流(ゲートボールクラブ)障害のある方を講師に招いての交流や講演、体験(ポッチャ・ブラインドサッカー体験)
35		はい	①毎年度、1～6年生が地域の施設の方々との交流をしている。障害者福祉施設「ほたるの里」の方々との交流では、1年生がダンスの発表をしたり、6年生と一緒に折り紙を折ったりした。老人クラブの方々とは、ボランティア委員会が風船バレー、3年生が肩たたき等をして交流した。また、5年生がデイサービスの方々と一緒に的当てゲームなどを行った。 ②昨年度は、1、2、4、5年生が幼稚園保育園の年長児と交流をし親睦を深めた。2年生は読み聞かせや学校での生活の発表、4年生はヤギを介して交流した。	①地域の施設の方々との交流ではそれぞれ、いろいろな人との関わりの中で得られる知識やコミュニケーション能力を身につけることができた。また、異年齢の方と楽しくゲームをするためにはどんな工夫をしたらよいか考えることで相手の立場に立ってアイデアを出し合うことができた。 ②幼稚園保育園との交流ではお兄さんお姉さんとしてやさしく接しようと考え行動する姿が見られた。	・交流に向けて行う練習等の時数の確保が難しい。	・毎年度、ボランティア委員会で『ひまわりの種プロジェクト』に参加している。復興途中の福島の人々に元気になってもらいたいという願いをもった。 ・昨年度、6年生が松代地区小小連携合同授業でブラインドサッカーを体験した。 ・今年度、学年ごと、福祉や多様な生き方についての学習会を計画し、講師から学んだりワークを行ったりすることを通して、コミュニケーション力をつけ、人の気持ちを考え、やさしい気持ちをもつことの大切さを学ぶ。
36		はい	毎年度、低学年(1,2年生)児童が近隣の特別養護老人ホームに伺い、一人ひとり自己紹介をしたり、折り紙、お手玉などで一緒に遊んだりした。	高齢者の皆さんとの交流を通して、子どもたちが勇気もらい、がんばろうという気持ちをいただく機会にしたい。また、やさしい気持ち、思いやりの心を育くみ、自己肯定感を高めたり友だちの良さを再発見したりする場としたい。	特になし	児童会でアルミ缶を集め、地域の特別養護老人ホームへ車イスを贈る活動をしている。
37		はい	①今年度、第4学年の一学級が、近隣のデイサービスセンターに伺い、歌や劇の発表と一緒に活動するゲームなどをやるなどの交流活動を行っている。	・身近な高齢者と自らかかわりを持てる子ども ・身近な高齢者の暮らしやそれを支援する仕組みの理解 ・相手を意識した行動 など	○デイサービスセンターのご都合のいい時間帯に行くことになるので、それが午後になるため、時間の融通が利かない点がある。	車いす体験・介助の仕方 特別養護老人ホームとの交流 アイマスク体験
38		はい	・社会福祉法人花工房福祉会エコーンファミリー川中島と毎年、大豆の種まき、収穫と一緒にしている。 ・若穂福祉まつりに毎年6年代表者が参加し、発表している。 (H30年度 手話の学習について)(H31年度 盲導犬について)	・大豆の種まき、収穫と一緒に作業をすることで、自然と交流ができています。 ・若穂福祉まつりで発表することで、自分たちの学習について見直すよい機会となっている。	社会福祉法人花工房福祉会エコーンファミリー川中島の事業所が学校から地理的に遠いところにあるため、年に2回の交流のみになってしまっている。	・保護者の方の紹介による手話学習の取り組み(H30年度6学年) ・盲導犬を連れて生活している方の講演会(H30年度 全校児童・PTA研修会)
39		はい	◆毎年、多機能型事業所アトリエCoCoさんとの交流を全学年が行っている。 6月…2年生がアトリエCoCoさんが育てたサルビア苗を、学校花壇に利用者さんと一緒に植える。その後、教室で茶話会をする。 7月…1・2年生がアトリエCoCoさんの事業所を訪ね、施設見学をしたり、七夕と一緒に飾ったりする。飾り終わった後、児童が手作りして持参したデザートと一緒に食べ、交流する。 9月…5年生が「わかほ福祉まつり」で、全校を代表して交流の様子を発表する。 10月…3・4年生が「アトリエCoCoの収穫祭」のステージで利用者さんと一緒に歌い踊る。4年生が人権教育の授業で扱った題材に合わせ、障害のある人の気持ちを考えるためにアイマスク体験をする。 11月…6年生が「若穂文化祭」のステージで利用者さんと一緒に歌い踊る。1・2年生が利用者さんを学校にお招きし、音楽会の歌を発表し、見てもらったり、フライングディスクゲームと一緒に遊んだりする。	・アトリエCoCoで働く方の頑張っている様子を、施設を訪ねて見ることにより、施設や利用者の方々についての子どもの理解が深まる。 ・利用者の方と一緒に活動することで、相手のことをより深く知ったり、どのように接することがお互いが楽しく活動することにつながるかを考えながら行動することができる。 ・知識としての学習にとどまることがないよう、自分自身が体験することにより、目が見えない恐ろしさや支えがある事の安心感などを味わい、それまでの自分の考えを見直す機会になる。	特になし	特になし
40		はい	①平成30年度・令和元年度と、稲荷山養護学校の副学籍児童(1・2・5年生)が「総合的な学習の時間」等に原級や特別支援学級の児童と交流を重ねている。運動会にも招待し、参加してもらった。 ②福祉・ボランティア委員会で、グループホーム川中島へ飾っていただく掲示物(季節を感じるもの・お手紙等)を作成し、お届けしている。また、運動会へも招待した。	①副学籍児童が喜んでもらえるために劇を考えてきた場面では、はじめは自分本位の内容になっていたが、学級での話し合いや交流機会を重ねていくことで、相手意識に気づけるようになってきた。 ②グループホームの方が楽しみにしていることをお聞きし、委員会としても張り切って考えて制作できるようになってきた。	・児童会活動の時間内に、グループホームへ訪問して交流することが難しい。	・児童会まつりにおいて、福祉・ボランティア委員会によるアイマスク体験 ・ペットボトルキャップ集め(車椅子ダンスの方へのお手伝い) ・点字学習(4年)
41		はい	①毎年、第6学年が近隣の特別養護老人ホームサンピラ川中島に伺い、音楽や劇の発表をしたり、一緒にゲームをするなどして交流活動を行っている。 ②毎年、第6学年が近隣の障がい者支援施設エコーンファミリーの方と一緒に畑のむぎや大豆の栽培や作業と一緒に交流している。 ③年に2回、ボランティア委員会が地域のお年寄りの会「弥生会」へ行き、ゲームなどを一緒に交流している。	・お年寄りや障がいのある方と交流することにより、接し方や理解を深めることができる。	・老人ホームとの交流は冬に計画していることが多く、インフルエンザや風邪などの流行でできないこともあるので、交流の時期見を直したい。	・聴覚障がいのある方のお話を聞く ・ブラインドサッカーの体験 ・地域のお年寄りとの交流(グリーンプラザ) ・視覚障がいのある方の講演会 ・アイマスク体験

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する取組等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
42		はい	①毎年、運動会と音楽会に近隣の宅老所のお年寄りを招待し、子どもたちの発表を見ていただいている。 ②今年度、3年生が宅老所へ行き、利用者のお年寄りと交流を行っている。	○お年寄りと話をする中で、児童が知らないことを知ることができる。 ○児童がお年寄りとの交流内容を考える中で、相手を思いやる気持ちを育てることができる。	特になし	パラリンピアンを講師に招いての学習会、パラリンピアンによるバラスポーツ(ボッチャ)体験、点字学習、アイマスク体験
43		はい	地域にある、認知症の方に特化したグループホーム「コスモスさいなみ」の入所者の方と、交流委員会児童との交流(校歌ダンスの発表、個人でのふれあいなど)	児童にとっては、多様な状況にある方とのふれあいを通して、いろんな方がいることを知ったり、思いやりの心を育てることを願っている。	委員会活動の時間がとりやすい冬期には、インフルエンザの流行などが考えられ、交流は難しい。1学期の忙しい時期での交流ということで、準備の時間がとりにくい面がある。	学級単位での幼稚園・保育園児童との交流。学級の児童の祖父母との交流など。
44		はい	老人ホームを訪問し、交流を行う。	相手意識を持って活動を企画し、楽しく交流を行う。 交流体験により、満足感を持つ。	交流の日程調整が必要となる。 授業時数の関係で交流回数に限られる。	特になし
45		はい	真島の里(特別養護老人ホーム)との交流 真島保育園の園児との交流	相手の気持ちを考えて行動できる実践的な力をつけること 相手が喜んでくれるような企画を考え、実行する力をつけること クラスの仲間と協力して実践し、うまくいかなかったことをカバーし合う対応力をつけること	相手の状況をよく理解して、企画・実践しなくてはならないので時間的にも余裕をもって実施する。(時間の確保が課題)また、相手を思って考えたことであっても、予想外の反応が返ってくることもあるので、その際の子どもたちの気持ちのケアも大事する必要がある。	特になし
46		はい	3年 高齢者との交流 かえて荘 4年 盲目の方との交流 ブラインドサッカー、点字、生け花 2日間に分けて交流、高齢者との交流 七二会荘 訪問	高齢者や障害のある方など様々な人との関わりを深め、思いやりや共に生きていくという考えを育てる。目の不自由な方及び共に生きるボランティアの方々との活動を通して児童が、よりよいコミュニケーションや様々な人々との関わりを考えることができる。	盲目の方との交流では、ご本人が実費で生け花などを持参しており、学校での謝礼が十分ではないと感じます。交通費と謝礼は気持ち程度ですが、遠いところを七二会まで、しかも真冬に妹さんと一緒にこななければなりません。季節的にもインフルエンザの時期で計画通りにはいかないこともあり、連絡調整に苦慮しています。	特になし
47		はい	①毎年4年生が「グループホームしんこう」を訪問し、入居者の方と共に歌やゲームを楽しんだり、話したりするなどの交流活動を行っている。 ②今年度、4年生が信更公民館分室(星空の郷たかの)で行われた交流会に参加し、70歳以上の方々や歌ったり話したりして親睦を深めた。 ③毎年運動会と音楽会に、「グループホームしんこう」の方々をお招きしている。	・子どもたちの中に思いやりの心が育まれ、誰にでも優しく接することができるようになる。また、子どもたちが自分のよさに気づき、自身の可能性を拓くことにもつながっている。	・本校が山間地に位置しているため、交流先へはタクシーでの移動となり、高額な交通費が必要となる。	特になし
48		はい	毎年4学年の児童が地域にある老人福祉施設を訪問し、歌や踊りを披露したり、会話や肩もみなどをして交流をしたりする活動を、年1回～2回行っている。 また、認知症サポーター講座を受講し、認知症についての理解を深める活動にも取り組んでいる。	お年寄りの方と関わることで、人にやさしくしたり、思いやりの気持ちを持つことができるようになってほしい。また、認知症の方や、困っている人に出会ったときに、自分にはどんなことができるかを考え、実践できる大人になってほしいと考える。	子ども達はお年寄りとの交流が大好きで、もっと訪問したいと思っているが、他教科や行事の関係もあり、なかなか時間が確保できない。	特になし。今の活動を継続したい。
49		はい	認知症高齢者グループホーム泉平ファミリーに4年生が訪問して、歌などを発表したりゲームを楽しんだり、作品を交換したりする交流活動をしている。	子どもたちが認知症のお年寄りとのふれあうことで、その人の特性に応じて対応するなど相手意識を持った接し方、思いやり、認知症の実態などを具体的に学習できる。また入所者も大変喜んで待っていてくださるなど、相互に良さが感じられた。	学校と施設との距離が2kmほどあるため、移動に時間がかかってしまう。炎天下や厳冬期など交通車両を手配したいが、費用的にむずかしい。	地区の保護士からの要請で、地域を明るくする作文コンクールに応募している。
50		はい	・毎年度、全学年が近隣の戸隠中央デイサービスセンターに伺い、一緒にゲームをしたり、歌やダンスを発表したり交流活動を行っている。 ・低学年が裾花サービスセンターに伺い、一緒にゲームをしたり、学習発表をしたり交流活動を行っている。	・高齢者や福祉に関する課題に目を向けられるようにしたい。 ・思いやりや助け合いの心を持ち、自分たちの接し方について考えられるようにしていきたい。	特になし	特になし
51		はい	学校近くの老人施設に行き、「歌」「なぞなぞ」などの出し物をおこなったり、入所している方との交流活動を行ったりしている。	学校にとっては、 ・近所のお年寄りとの交流(発表する場)を与えてもらい、大勢の人前で話をする経験をするすることができる。 ・お年寄りをいたわる気持ちや思いやり、マナーなどを学ぶ機会となる。	○準備などを含めると結構な時間を要するため、学習進度に影響を与える恐れがある。	日本ゴールボール協会 副会長 元日本代表の西村秀樹さんによるゴールボール体験と講演会。

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する取組等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
52		はい	・大岡介護サービスセンターでクラブ活動で学んだ和太鼓の発表をした。 ・大岡介護サービスセンターの売店の名前を考え、利用者の皆さんに決めていただいた。 ・大岡介護サービスセンターに自分達で育てた大根を販売に行き、お礼にダンスと歌の発表をした。	・利用者の方に喜んでいただく体験を通して、自己有用感を育てることができる。	・利用者の方と直接会話をしたり遊んだりする交流もできるとよい。	特になし
53		はい	地域にある老人福祉施設(久米路荘)との交流	お年寄りの方々との交流活動を通し、相手の存在を思いやり、お互いに寄り添いながら、心を通い合わせる ことができる喜(よろこ)びを感じ(かん)じるとともに、お年寄りの思いや生き方に触れ、豊かな心を育む。	特になし	身体の不自由な方との交流(各学年の計画)ブラインドサッカー体験 ポッチャ体験 車いすバスケット体験 車いすマラソン体験
54		はい	①毎年度、4年生が中条高齢者生活センター「いこいハウス」に伺い、学習の成果を発表したりゲームを一緒に行ったり交流活動を行っている。年3回 ②今年度は、3、4年生が中条高齢者生活センター「いこいハウス」で交流活動を3回行う。7月4日実施 10月3日 11月21日実施予定 ③毎年度、5年生が中条介護老人保健施設「すめらぎ」のお年寄りと交流活動を行っている。	・交流を通して福祉ボランティア活動の意義を実地に学ぶ。 ・交流する方が喜んでくれるように計画を立てたり、進んで関わることを通して相手意識を高める。	・デマンドバスで移動するためバスの運行する日が決まっています日程が決めづらい。 また、バス代がかかる。	オリパラ学習でポッチャ体験
55		はい	毎年度、長野ろう学校との全校交流、学年交流、学級交流を行っている。具体的には、運動会で一緒に競技に取り組んだり、視覚障害についての学習会、お楽しみ会、特別支援学級の交流スキー教室などをしたりして、年間を通して活動している。	ろう学校の生徒と交流学習をすることで、お互いの理解を深め、親睦をはかることができる。 コミュニケーションをはかる上で、相手のことを考えたり、手話などへの関心が高まったりする。	連絡調整。視覚支援の配慮の在り方。	・福祉体験学習 ・職場体験学習 ・発達障害に関する学習会 ・福祉関係の方を交えての支援会議 ・赤い羽共同募金 ・ユニセフ募金 ・副学籍の生徒との交流学習
56		はい	1. 6月に講師を招いて福祉に関する講話をしていただく。(3学年) 2. 高齢者体験を行う。(アイマスク体験、車椅子体験、手袋をはめて小銭をつかむなど) 3. バリアフリー、ユニバーサルデザインの学習をし、学校の中のバリアフリー探しをした。	体験学習をしたことは生徒にとってインパクトが大きく、生徒の中に福祉や障害についての意識が高まった。また、バリアフリー探し等をしたことから、生徒が街の中で気づく目を持ち、自分のできることを考え、気づいて行動できるようになってほしいと期待している。	学校の中で学んだことを施設への訪問等につなげたいが、施設との連携や段取りの中に難しさを感じる。 講師の人選と講話の内容が大事。	認知症サポーター養成講座(H31. 3. 25)に参加。(本部役員4名、合唱部20名、1年生有志5名(栗田の里)にて) さくら10組(知障学級)の生徒が定期的に高田がっこう(デイサービスの施設)を訪問し、施設利用者の方々と交流会を行っている。
57		いいえ	③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。	やっていない	やっていない	やっていない
58		はい	・高齢者福祉施設を訪問し、手作りの大型カレンダーを届け、利用者の方と交流活動を行っている。 ・防災訓練の際、近隣の高齢者のデイサービスセンターとともに訓練を行い、生徒が避難の手助けをした。 ・福祉施設の施設祭に吹奏楽部が参加し、演奏を披露した。	・近隣の福祉施設やそこに利用者について生徒が理解することができた。また、災害の折には、助け合うことの必要性を学ぶことができた。	特になし	特になし
59		はい	○長野盲学校と交流を続けている。 ・盲学校の運動会に、中学生が参加する。 ・盲学校の生徒が、中学校の授業に参加する。 ・中学校の文化祭に、盲学校の生徒を招待する。	・障がいへの理解を深める。 ・自分たちができることを考え、実施しようとする態度を育てる。	・特になし	・点字体験 ・バラスポーツの体験 ・オレンジカフェ(認知症の方と交流する場)の開催(予定)
60		はい	①毎年度、第3学年が近隣の「富竹の里」「グループホーム太陽」「いつわ苑」「リハビリテーションセンター」「りんごの郷」「かがやきひろば東北」に伺い、施設の清掃と一緒にゲームをするなどの交流活動を行っている。	【ねらい】 ・人とコミュニケーションをとりながら、よりよいものを作り上げようとする。 ・自己の適正や性格などを理解し、自分の将来について見極めようとする。【効果】 ・人と関わることの楽しさや、役に立ったり喜んでいただけたりすることの充実感など多くのことを感得できる場になっている。	・時間的なことから、施設訪問が年間1~2回程度になってしまっており、より深まった交流になりにくい。	・福祉体験学習(車椅子体験・アイマスク体験)(第3学年) ・市役所福祉課の方による「あいサポート研修」(第3学年)
61		はい	・3年生…地域貢献、老人福祉施設訪問 ・生徒会…車いすの贈呈	・全校生徒の地域福祉への意識向上 ・自分ごととして、地域福祉をとらえ、考えられるようになる	・学年生徒200名に対し、できるだけ個別に関わりがもてるようにしたいが、訪問できる施設に限りがある。(交通費を出すことができないので、遠くへは行けない)	・ポッチャ体験 ・地域の老人会を訪問し演奏活動(吹奏楽部)

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する取組等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
62		はい	・昨年度、1年3組生徒が近隣の老人ホーム安茂里「コスモス」に伺い、歌の披露をしたり、一緒にゲームをしたりするなどの交流活動を行った。 ・昨年度、吹奏楽部が近隣の特別養護老人ホームめぐもりの里の敬老祭に伺い、演奏を行い、交流活動を行った。	・交流活動を通して、お年寄りの方々への理解を深め、思いやりの心を育てることができる。 ・中学生が地域に出て活動することによって、現在の中学生の様子について知っていただく機会となるとともに、地域の方々に応援してもらえることが期待できる。	・交流する時間を調整して生み出すことに課題を感じる。	・パラアスリートを講師に招いての講演会(R1.10.24) ・長野包括支援センター 施設体験交流(認知症サポーター講座 平成28,29年度)
63		はい	・特別支援学級の生徒との交流(収穫祭) ・ボランティア委員会の生徒による施設訪問、交流会 ・老人会で集めたタオルを特支学級生徒が雑巾に仕上げ、老人会で福祉施設等に配布。 ・芹田支所での社会福祉協議会主催のバザーで、特支学級生徒が花の販売活動を行う。 ・地区生徒会(日詰地区)で、地域にあるグループホーム稲葉と交流活動。上区は、今後老人ホームを訪問計画中。	生徒が交流する中で、相手の喜ぶ顔を見ることで、生徒自身の自己肯定感が高まったと思われる。多くの生徒が再度訪問したいと考えている。 期待することは、年齢や障がいの壁を超えたバリアフリーな人間関係の構築、インクルーシブ教育の実現。	交流する相手によって内容の検討が重要になってくること。	スノーバスターズ(雪かきボランティア) 学校周辺の高齢者や雪かきのできない人で、社協に登録している家を訪問し雪かきをする。
64		はい	・ケアハウス・エマオ(軽費老人ホーム)の入所者の方を文化祭にお招きして、中学生の学習の成果をご覧いただく。 ・特別養護老人ホーム「やすらぎの園」を訪問し、ご指導いただきながらしめ縄づくりを通じた交流をする。	・高齢の方々や意思の疎通を図る体験を通して、生徒自身のものの考え方の幅と柔軟性が広がることを期待する。同時に他者への思いやりや寛容な気持ちを養いたい。	・それぞれ(本校としても、相手の施設としても)が日常の活動がある中で、直接の担当者同士がそれぞれの実情を把握しながら連絡を取り合う(時間的な部分も含めて)のが難しい。また、「やすらぎの園」への訪問は生徒会の委員会活動で行っているが、学校の「保護者懇談会」と抱き合わせなのでメンバー選出が難しい。	特になし
65		はい	毎年度、ボランティア委員会や吹奏学部が、近隣の特別養護老人ホーム桜荘に伺い、清掃活動やレクリエーションを行うなどの交流活動を行っている。(10.11)	生徒が、ボランティアへの意識を高め興味を持つとともに、地域の老人ホームを訪れることで、社会の問題や課題に目を向けるきっかけとなることを期待している。また、交流した生徒からは、ボランティアへの大切さがわかった、喜んでもらったことがうれしかったなど、ボランティアへの意識の向上とともに、生徒の自己肯定感を高める効果もあると感じた。	実施前の指導。やらされているという意識にならないための指導。	特になし
66		はい	①福祉委員が、学区内のシルバーホーム松代に清掃やふれあいタイムで、「おじいさん、おばあさんに幸せを届けよう」というスローガンのもと活動を行っている。 ②2学期に、2年生が老人ホームで清掃やふれあい活動を行っている。	①ボランティア活動への敷居が低くなることを期待している。 ②自分の親、自分の将来を考えることができる。 ③他の人との関わりを通して、コミュニケーション能力を高めることができる。 ④自己肯定感や主体性を高めることができる。	特になし	特になし
67		はい	①毎年度、生徒会人権福祉委員会が中心となり、全校でアルミ缶を収集し、収益金で車いす等の介護用品を購入し、中学校隣の障害者支援施設ひかり学園さんへ寄贈している。文化祭に招待し、贈呈式を行っている。 ②文化祭にひかり学園の入所者さんの作品を展示するコーナーを設けている。 ③2年生の職場体験学習で、若穂地区の老人保健施設や特養での実習を行っている。	・障がい福祉や老人福祉への理解を進め、社会の一員として自らができる活動を実践していこうという意欲をもつ。 ・障がいのある方や老人と接することで、正しい理解を促進する。	特になし	・総合的な学習の時間で、クラス単位でひかり学園さんと交流した。(ひかり学園さんへの訪問やひかり学園祭への参加等)
68		はい	・施設のお祭りに、合唱部・吹奏楽部が演奏で参加。ボランティアとして、約70人の生徒が参加。 ・福祉体験学習の講師として、施設の方が協力。 ・市ボランティアセンターと連携し、高齢者福祉体験を行った。 ・生徒会福祉委員会と施設との交流活動(年2回)	・障害のある方や高齢者など、様々な人が当たり前で暮らしている社会を感じ、それぞれが気持ちよく関わり合って共にいることを学べる。	・十分な活動時間の確保。 ・大規模校なので、学年の全生徒が同時に活動することが難しい。(会場・講師の人数・教材の数)	特になし
69		はい	①毎年、第3学年が近隣の社会福祉施設、「ケアハウスいなさ」と、「インターコート藤」、「ニテイケアセンター」、「ツクイ稲里中央」、「コスモス長野」、「コスモさいなみ」に訪問している。(7月と10月)各クラスごと考えたゲームなどを持って行き交流活動を行っている。	地域の老人介護施設でのお年寄りとの交流活動を推進することで、地域とのふれあい、人とのふれあいを通じて、自己を見つめ、これからの自分や地域、ふるさどについて考える機会としたい。	特になし	○高齢者疑似体験学習(アイマスクなど)(3学年) ○認知症サポーター講座の実施(3学年) ○独居高齢者のお宅を訪問して花をプレゼント(緑化委員会) ○更北子ども夏祭りへの参加協力(福祉助成委員会) ○更北子どもフェスティバルへの参加協力(生徒会、福祉助成委員会) ○近隣の保育園児、幼稚園児をお招きして「遊びの広場スタンプラリー」を行う(3学年)
70		はい	①毎年3年生が近隣の福祉施設を訪れ、お年寄りや障害のある方との交流を行っている。 ②毎年福祉委員会が、福祉施設「やすらぎの園」「コスモさいなみ」「特別養護老人ホームこうぼく」の方を文化祭に招待し交流している。 ③特別支援学級の生徒が、カレンダーを作成し地域の老人ホーム「やすらぎの園」へ届けている。	・交流前に福祉ボランティア活動に関するお話をお聞きすることで理解を深めている。 ・実際の交流を通して、自分の生き方を見つめ地域の未来を考えるきっかけとしている。	特になし	・高齢者疑似体験(車椅子体験、アイマスク体験等) ・地域在住の車椅子生活をお呼びして体験を伺う。 ・ポッチャ体験

NO	学校名	Q1 平成28年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？	Q2 1 「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。 2 「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。 ①手近な場所に施設等がない(施設までの交通手段がない) ②交流したいが、施設等と連携する段取り等が分からない。 ③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。 ④その他	Q3 取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。	Q4 取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。	Q5 設問1以外の取組で、H28年度から今年度実施(予定含む)した福祉に関する取組*があれば教えてください。 *福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組
71		はい	毎年度2回(6月、12月)、近隣の特別養護老人ホーム「七二会荘」を訪問し、七夕やクリスマスに関わる交流活動を行っている。全校または有志での活動で、生徒会役員を中心に企画・準備を行っている。今年度2回目の訪問は、12月6日の予定。	利用者さんと楽しく交流することを通して、年長者を敬う心や、感謝の気持ちを育てる。	特になし	各学年の福祉体験学習(1年:アイマスク体験 2年:車イス体験 3年:高齢者疑似体験) バラスポーツに関する講演、ポッチャ体験、フロアホッケー体験
72		はい	・毎年度、第1学年が近隣の認知症対応型共同生活介護施設「グループホームしんこう」に伺い、合唱やダンスを発表したり、一緒にゲームをしたりするなどの交流活動を行っている。	・地域に根ざしたキャリア教育の一環として、地域にある職場を訪問することにより、身近な職場について新たな価値を感じさせる。グループホームしんこうでは、福祉教育の学習も兼ね、お年寄りとの交流はどのような点に気を付ければよいかを考えながら、交流を経験するとともに仕事のお手伝いをさせていただくことで、来年の職業体験学習につながる学習にする。	・施設にお勤めされている方に学校にきていただき、事前学習を行っている。事前に学習することで当日不安に思う生徒が少なくなっているのではないかと。	・地域の施設「花の里」への植樹活動を全校で行っている。 ・総合的な学習の時間を使って、各自の健康についての課題解決学習を全校で行っている。(全8時間の予定)
73		はい	・今年度、年2回2時間続きの生徒会時に町内の6施設を訪問し、一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたり、施設周辺の清掃をしたりする等の交流活動やボランティア活動を行う。	・地域の社会福祉施設でのボランティア活動を通して、地域との人との関わりを深め、ボランティア活動に関心を持ち、活動に参加しようとする心を養う。	・移動に利用するバス代金を確保すること。 ・施設から出された要望に対して準備期間に充てる時間の確保が難しく、十分な活動をする事ができない場合がある。	・認知症サポートキャラバンによる講義(1学年) ・老人疑似体験学習(1学年)
74		はい	○毎年度、第1学年、3学年が近隣の特別老人ホームに伺い、歌を披露したり、ゲームをしたりと交流活動を行っている。また、資源回収で換金したお金で、車いす等の福祉用品を購入し、贈呈している。 ○特別養護老人ホームで、実際に車椅子体験をし、車椅子を操縦することの大変さを体験する。 ○老人疑似体験を行った。	○車椅子体験や老人疑似体験を行うことにより、高齢者の立場にたち、声の大きさを工夫したり、耳元で話したりするなどの相手意識をもつことができるようになる。	学年を追ってカリキュラムを組み、3年間で見直しを持って取り組みができるといい。	特になし
75		はい	①毎年度、全校で地区内の老人ホームに伺い、一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりするなどの交流活動を行っている。 ②学校の文化祭に招待状を出している。	・地域のお年寄りと交流することにより、思いやりの心を育てることができる。 ・地域の昔の様子を知ることができ、地域への愛着を持つことができる。	特になし	施設訪問の前に認知症サポーター講座を実施している。
76		はい	①今年度6月に、地域の高齢者福祉施設を学年ごとに全校生徒が訪問し、施設の社会的な役割についてお話を聞きしたり、施設の利用者の方と一緒に菓子作りを行ったり、歌やリコーダー演奏を発表したりした。 ②今年度は、10月頃と12月頃と同じ福祉施設の方と交流活動を行う予定。(期日は未定)	①高齢者の方とのかかわる経験がない生徒もおり、交流活動を通して高齢者の方とのかかわり方や高齢者の方を尊重した社会を作る大切さを考えることができる。 ②高齢者福祉施設の社会的な役割について理解することができる。 ③施設で働いている方の様子を見たりお話を聞きしたりして、職業観を広げることができる。	①学校から福祉施設が離れているため、補助金を利用して公共交通機関で往復している。補助金に限りがあり、生徒数が増えた場合や他の交流活動を行う場合は、交流活動の回数に制限が生じる可能性がある。 ②高齢者の方の安全を確保するように事前指導を行って活動しているが、損害賠償保険に加入した方がよいのかどうかよくわからない。	①学校周辺の高齢者の家の雪かきのお手伝い。
77		はい	・毎年度、全校で近隣の養護老人ホームや一人暮らしのお年寄り宅に伺い、一緒にゲームをしたり、草取りや清掃をしたりするなどの交流活動を行っている。(11月1日実施予定)	・地域に暮らしのお年寄りと話したり、奉仕作業を行ったりすることを通して、相手の立場に立って考え実践する力が養われる。	・お一人暮らしのお年寄りを、コミュニティスクールなどに協力をいただきながら探しているが、なかなか情報が得られず、3~4名のお宅を訪問している。また、受け入れの可否については個々のお考えがあり、むやみに訪問できない難しさもある。	・地域の社会福祉協議会主催の「サマーチャレンジボランティア」に多くの生徒が参加をし、病院や保育園、福祉施設などでボランティア活動を行った。
78		はい	①毎年度、第3学年が高齢者福祉センターいこいへの訪問を行い、一緒に手遊びや作業などをしたり、歌を歌ったりするなどの活動で交流を行っている。また、時間がとれる時期に学年でいこいへの訪問を行っている。 ②住民自治協議会の高齢者への宅配弁当に、中学生が手紙を書き、一緒に届けてもらう活動を年間を通して続けている。	・高齢者に対して思いやりや尊敬の気持ちを持つことができる。 ・高齢者に喜んでもらおうと高齢者が知っていると思われる遊びや歌を練習し、普段ではあまり交流のない世代とも話ができる。 ・高齢者施設では、交流に笑顔があふれ、子ども達の歌に泣いている方や一緒に歌う方もいて温かい時間が良い。	・時間を設定するのが難しい時期もあり、何回も訪問したいと思うようにならない。交通手段等も課題だと感じる。	・人権教育による、福祉体験学習(アイマスクやイヤーマフ) ・認知症サポーター講座の実施。
79		はい	○やすら木の家とくま を生徒会福祉環境委員が訪問し利用者とおりがみやかるたで交流 ○合唱部の生徒が東長野病院でミニコンサートを開く。	○高齢者や障がい者、園児に対する生徒の理解が深まる。 ○地域における生徒の貢献活動として位置付けられる。	特になし	○中学3年生が、総合的な学習の時間で「地域貢献」をテーマに個別課題を設定して学習を進めている。その中で、有志で生徒4名が松寿荘を訪問し歌を披露した。